

Dietary inflammatory index and risk of upper aerodigestive tract cancer in Japanese adults

阿部, 真紀子

<https://hdl.handle.net/2324/2236087>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏 名：阿部 真紀子

論 文 名：Dietary inflammatory index and risk of upper aerodigestive tract cancer in Japanese adults.

(日本人における食事性炎症能評価指標と頭頸部・食道癌リスクとの関連)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

目的：食事性炎症能と癌発症リスクとの関連は、以前より指摘されている。今回我々は、日本人において、食事性炎症能指標 (dietary inflammatory index : DII[®]) と、頭頸部・食道癌発症リスクとの関連性を検証した。

対象と方法：愛知県がんセンターにて登録された 1,028 人の頭頸部・食道癌患者と、それに性・年齢をマッチさせた 3,081 人の対照群についての、症例対照研究を行った。DII 値は、食事摂取頻度調査票を用いて得られた、主要栄養素および微量栄養素の摂取量から算出した。対照群の DII 値を大きさの順に四等分し、それを基準に、参加者を第 1~4 グループに分類した。条件付きロジスティック回帰分析を用い、喫煙量、飲酒量、飲酒後の顔面紅潮の有無、歯の本数、職業分類を交絡因子として補正し、オッズ比および 95%信頼区間を求めた。

結果：DII 値の上昇は、頭頸部・食道癌の発症リスク上昇と有意に関連しており (第 1 グループ対第 4 グループのオッズ比: 1.73, 95%信頼区間: 1.37-2.20)、頭頸部癌 (同オッズ比: 1.92, 95%信頼区間: 1.42-2.59)、食道癌 (同オッズ比: 1.71, 95%信頼区間: 1.54-1.90) それぞれにおいても、同様に有意な関連を示した。更に、頭頸部癌の中でも、上咽頭癌 (同オッズ比: 4.99, 95%信頼区間: 1.14-21.79)、下咽頭癌 (同オッズ比: 4.05, 95%信頼区間: 1.24-13.25) では、特に著明なオッズ比の上昇を認めた。

結論：DII 値の上昇と頭頸部・食道癌発症リスクとの関連は、主要な交絡因子を補正した上でも認められ、同様の関連が、喉頭癌以外のサブサイトにおいても認められた。中でも、慢性感染との関連で知られる上咽頭癌および下咽頭癌では、特に高いオッズ比を示した。これらの結果の検証の為、今後更なる研究が望まれる。